斗（とう）宿

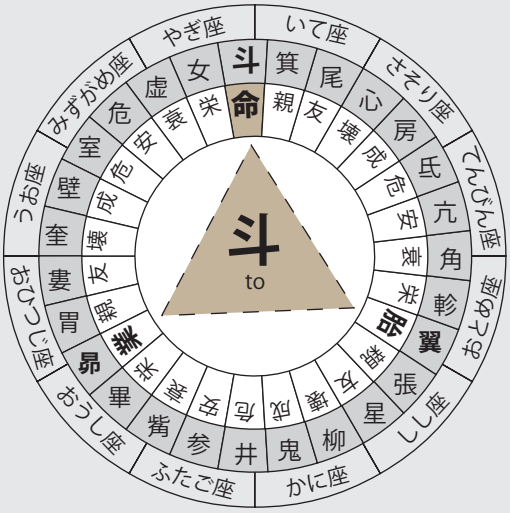
斗は柄杓（ひしゃく）の意

インド名	ウッタラシャーダー
星座	いて座１足　　やぎ座３足
神仏	陀羅尼菩薩
七分類	安重宿（安楽な生涯で、名声を博する）

多くの人と付き合って、あれこれ耳学問する知恵者。

この宿に生まれし人は、法として鞍馬を愛し、山林を歴し、祈祷祀を愛し、交わりを賢良に結び、技能多く、銭財に足るに合す。（上巻）

基本的には騒がしさのない静かな宿。「鞍馬を愛し」＝遠出や外出、車を好む。「祈祷祀を愛し」＝宗教性が高いか、逆に無心論者。「交わりを賢良に結び」＝友人、知人には好人物や実力者がいる。技術系の仕事に向き。「銭財に足るに合す」＝安重宿なので、それなりの徳分があり生活に困窮はしない。



■特徴

「未来を指し示す人」。北斗七星の意味を持つので人の道を照らす人という意味が生まれた。癖の無い性格。インスピレーション。耳学問の人。情報は惜しまず公開する。お人好し。多くの人脈を持つ。社交的。晩成型。周りの環境に左右される。直感。邪心が無い。金銭欲、物欲がうすい。一種の徳がある。周りが盛り立ててくれる。自己アピールは苦手。表面にこやかだがしたたかで頭のいい星。名誉欲はある。妥協できず孤独。気が弱い。だまされる。

※斗宿の月の星座は、いて座、やぎ座、みずがめ座のどれかに入る。いて座なら戦いに強く精神性が高まることをしたがる、やぎ座なら名誉を重んじ社会に役立つような人間になりたい、みずがめ座ならそれほど古来からの儀式や形式にこだわらない、逆に嫌がる人もいる。

■星の進化段階（自分の星の長所を伸ばす目安）	
未成熟	意思表示が曖昧で、責任を負うことに抵抗を持つ。
成熟途中	これといった個性は表に出ないが、話好きで交際上手なので、人に好かれる。
成熟	広い知識と腰の低さが好感を呼び、多くの人の支持と協力を得て大仕事を成す。

■人間関係に役立つ三九の秘法

裏と表	（近・中・遠）	（近・中・遠）	関係性
安・壊	安（危・亢・参）	壊（心・奎・柳）	惹かれあうか、嫌悪感を感じる相手。しかし、最もお互いを高め合うことができる関係。
栄・親	栄（女・軫・畢）	親（箕・胃・張）	気持ちが軽くなり、長時間一緒にいても疲れない相手。発展性はないが調和的。
友・衰	友（尾・婁・星）	衰（虚・角・觜）	価値観が似ていて、話が盛り上がる相手。楽しいが近づきすぎるとぶつかる。
危・成	危（室・氐・井）	成（房・壁・鬼）	思想は同じだがやり方が違う。お互いの個性を認め合えれば目標を達成できる関係。
業・胎	業　　昴	胎　　翼	古い友人のように気心が知れている相手。手の内がわかるのでやりにくく感じる。
命	斗		似たもの同士、自分を客観視するにはいい相手。自分を反映してくれている。

※相性の場合は、相談者を怖がらせたり安心させたりするのではなく、どのような関係になりやすいかを指導するとよい。例えば「安・壊」の関係は、お互いを高めあえる関係なので努力すれば素晴らしい発展がある、「栄親」の関係は、努力しなくても気が合うので成長はあまり望めない。

■付き合い方

性格にクセがなく、どんな人ともわけ隔てなく気軽に話ができるので、この人と付き合うのにテクニックはいらない。「斗」の人は、自分が苦労して仕入れた情報でも、いとも簡単に、惜しみなくそれをみんなに公開してくれるので、こちらもとっておきの話を提供してあげるとよい。みんなといるときは生きいきしているが、意外に人見知りなので、こちらから声をかけてあげること。特別な宗教に関わっていなくても、宗教的な行事や、神社仏閣参り、日本の古来から伝わる伝統行事などは熱心に行うので、付き合ってあげること。

■この星へのアドバイス

斗宿は、はじめは目立たなくても、いつの間にかグループの中心人物になっていることが多いので、焦って自分を売り込む必要はない。ただ、中心人物となったとき、それなりの実力と高い精神性を身につけていられるように、努力は怠らないこと。やってはいけないのは、欲を出して策略をめぐらせること。無欲が長所の斗宿が欲を出すと、人生の歯車が狂ってしまう。それよりも多くの人とふれあって人の和を広げていくことが大切。

■９年サイクルのバイオリズム　　点数の高い方が放出の時期（外に向かう）、低い方が吸収の時期（内面に向かう）

９年サイクルで同じリズムを繰り返す。星によってサイクルの巡りや使用される星もマチマチ。

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
木曜	金曜	計都	火曜	月曜	日曜	羅睺	水曜	土曜
8	7	2	3	6	9	1	5	4